

平成 26 年度

日野市郷土資料館の運営
の状況に関する評価書
(平成 25 年度事業)

平成 26 年 8 月

日野市郷土資料館

平成 26 年度 日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価書（平成 25 年度事業）

目 次

1 はじめに

2 評価の目的

3 組織と概要

4 評価の対象

5 評価の実施方法

6 評価の結果

郷土資料館事業評価表

No. 1 幻の真慈悲寺調査事業

No. 2 マイクロフィルムのデータ化事業

No. 3 古文書調査・整理事業

No. 4 勝五郎生まれ変わり物語探求調査事業

No. 5 七生丘陵の自然と歴史調査事業

No. 6 ふるさと日野の自然とくらし展開催事業

No. 7 学校教育連携事業

No. 8 市制 50 周年記念特別展 第二部

「日野市の半世紀～移りゆくまちの過去と今 そして未来」開催事業

No. 9 日野市のあゆみ 50 年調査事業

No.10 体験学習会・伝承事業

8 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

9 日野市郷土資料館協議会委員

① 4 期名簿、②第 5 期名簿、

1 はじめに

平成20年6月の「博物館法」の改正により、運営の状況に関する評価等として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされました。

また、これに先駆けて平成15年には、博物館の設置及び運営に関する基準において博物館は、事業の水準の向上を図り、博物館の目的を達成するため、各年度の事業の状況について、協議会等の協力を得つつ自ら点検を行い、その結果を地域住民等関係者に対して公表するよう努めるとされてきたところです。

これらを受け、郷土資料館では、平成21年3月31日に、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、平成21年度から郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しています。本年度は第6回目の事業評価となります。

2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営の状況に関する情報を積極的に提供することにより、市民・利用者や関係者との相互理解を深めるとともに、連携及び協力の推進に資するため、そして、効果的で市民・利用者に信頼される郷土資料館事業を推進することを目的に行います。この目的遂行のため、郷土資料館は毎年1回、運営状況について事業評価を行い、その評価に関する報告書を毎年作成し、教育委員会に提出するとともに、市民の皆様公表することとしています。

さらに、評価結果に基づき、郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

3 組織と概要

郷土資料館は、平成17年4月1日に、日野市ふるさと博物館から名称を日野市郷土資料館と変え「七生丘陵」という新しいフィールドを得て、行動する郷土資料館として新たに生まれ変わり、市民の教養、学術及び文化の向上を図ることを目的に、事業を展開してきました。

(1) 組織・職員

- ① 組織： 1館1係（資料館係）
- ② 職員： 4人（館長1、係長1、主任2（学芸員））
- ③ 再任用職員 1人
- ④ 嘱託職員： 3人（学芸員2）
- ⑤ 臨時職員： 1人（学芸員）
- ⑥ 臨時職員： 1人（緊急雇用 平成25年9月まで）

(2) 主な業務

- ① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示
- ② 資料の調査研究
- ③ 普及広報活動
- ④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援・連携

4 評価の対象

評価の対象は、平成 25 年度の教育委員会の活動及び「日野市教育委員会の教育目標・基本方針・主要な推進施策」主要な事業、行政評価対象事業とし、次の 10 事業について評価を行うこととしました。

- No.1 幻の真慈悲寺調査事業
- No.2 マイクロフィルムのデータ化事業
- No.3 古文書調査・整理事業
- No.4 勝五郎生まれ変わり物語探求調査事業
- No.5 七生丘陵の自然と歴史調査事業
- No.6 ふるさと日野の自然とくらし展開催事業
- No.7 学校教育連携事業
- No.8 市制 50 周年記念特別展 第二部
「日野市の半世紀～移りゆくまちの過去と今 そして未来」開催事業
- No.9 日野市のあゆみ 50 年調査事業
- No.10 体験学習会・伝承事業

5 評価の実施方法

評価を行うにあたっては、活動実績及び次年度以降の取組みを郷土資料館協議会に報告し、事業の取組み及び問題・課題点をあげ総括し、自己評価を行うとともに、協議会委員皆様の意見等を取りまとめ事業に対する評価としました。

6 評価の結果

郷土資料館協議会の意見では、郷土資料館は地域の博物館として地域の歴史を掘り起こし、地道な調査研究事業を続けることで成果を上げていると評価されています。特に市民の「調べたい・知りたい」という要求に応えて市民団体を支援するとともに、市民団体と連携を取り調査・研究事業を着実に進めているとされております。また、調査研究を意識し、市民団体と事業を掘り下げた結果、特別展の開催までに発展させたことは、資料館事業の発展方向を示したものと評価されました。

平成 25 年度の郷土資料館事業の評価は、市制 50 周年の特別展を中心として、調査研究の成果を講座・資料展示などにより教育普及活動を行い、事業を市民とともに進め、事業の効率性も、その事業目的に対する効果も高いと判断されました。しかし、

自己評価において郷土資料館の本来の使命である「歴史・民俗・自然等の資料の収集・保管」に関し、的確で効率的な対応が十分に行なわれてなく、資料の基礎的なデータ化、または「緊急性」・「重要性」の視点からの資料へのアプローチがなされていない点は否めませんでした。

このような評価により各取組事業の問題点や課題が明確になり、今後の方向性や取り組みが示されました。また、評価の結果並びに公表により市民・利用者から寄せられた意見等を、次年度以降の事業計画に反映させ、市民・利用者に信頼される郷土資料館事業を推進していくこととします。

郷土資料館の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた意見等は、次ページ以降の評価表No.1～10のとおりです。

郷土資料館事業評価表 25年度

1. 取組事業名

取組事業名 (教育目標・基本方針から)	幻の真慈悲寺調査事業	事業経費	1,595,618円
------------------------	------------	------	------------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を委員も分かるように簡潔明解に記載)			
事業の内容	百草地域に存在したとされる中世真慈悲寺の実態解明のための調査を行う。発掘・実踏・聞き取りなどを、市民参加の調査の会・地権者(東京電力・京王百草園・八幡神社氏子会等)・資料所蔵者などと共に取り組む。それによって得た成果を広く一般市民に還元して、郷土教育・地域の活性化に取り組んでいく。		

3. 事業の目的

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めているのか)
この地域に埋もれている未発見の資料の掘り起こしに努める。また、これまでの個々の成果の再検討をすることで、全体の歴史認識の再構築・具体化を図り、郷土教育に有効に活用するための道筋をつくる。より多くの分野との関わり深めていく。

4. 事業の目標・成果

(1) 目標(どのような目標を設定したのか)
① 平成19年・21年に実施された学術調査の報告書・百草観音堂および百草八幡神社の文化財調査報告書を刊行して百草・倉沢地区における未公開資料を一般市民に公開するとともに、この地域の文化遺産について市内外の研究者による問題提起をうながすことで活性化を図る。 ② 実踏や発掘調査・聞き取り調査により埋もれた資料の発見に努め、歴史的価値の充実を促進する。 ③ 市内外へむけて情報を発信していく。
(2) 成果(実績数値など)
普及・公開活動 ①『百草観音堂および百草八幡神社の文化財調査報告書』(500部)の刊行をし、瓦の報告書『真慈悲寺推定地出土の中世瓦』をHP上でデジタル公開することで広く資料活用の道を開いた。 ② 東京都文化財ウィークの通年公開事業に参加して文化財ウィークガイドに案内を掲載し、阿弥陀如来坐像の文化財解説カードを3,000枚作成して配布するなど、年1回の国指定重要文化財「阿弥陀如来坐像」の公開の周知に努めた。 ③ 3回の講演会を実施した。鎌倉佐保「12世紀多摩地域の武士と荘園」、野村武男「小田原藩と百草村のつながり」、馬場喜信「立地と景観から考える大悲願寺―平山氏との関わりから―」。 ④ 小島善太郎記念館とタイアップした百草地域の歴史ガイド、百草図書館通路でのパネル展示、真慈悲寺調査研究センターを活用して周辺地域からの歴史研究団体等の訪問を積極的に受け入れている。 調査・研究活動 ① 私有地での発掘調査を新堂が谷戸で実施し、真慈悲寺の土地利用の状況について新たな知見を得た。 ② 倉沢地区の実踏調査を開始するとともに、近世以降の旧家の墓地調査にも取り組み、百草村成立に関わる基礎データの集積を行っている。 ③ 百草八幡神社所有の寛永11年(1634)の絵馬の調査から、朱印貿易船末吉船との関係が浮上。

5. 事業の課題・問題

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)
真慈悲寺の調査・研究の総括を行ない、今後の調査・研究を再検討する。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった	☒ 大きな効果があった
		☐ 限定的な効果があった	☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い	☐ 効率が良い
		☒ やや効率が悪い	☐ 効率が悪い
自己評価	今後の方向性	☐ 拡大・充実	☐ 見直して拡大・充実
		☒ 維持・継続	☐ 見直し
自己評価	次年度以降の取組み	平成28年を1つの目安とし、真慈悲寺調査をまとめていく。平成26年～27年に主要部分の発掘調査、平成27年・28年で今までの発掘調査をまとめ、報告書を作成。平成28年度に調査成果に基づき特別展を開催予定。	
	委員意見	「真慈悲寺」は郷土史における重要な歴史テーマであり、市内外から注目され、継続して成果をあげることが期待されている。また、これまでの成果を継ぎ、市民・学校関係に普及・啓発する工夫が必要であり、郷土資料館に常設展示を望む。文化財報告書の刊行や都文化財ウィークの公開事業に参加し、周知したことは評価できる。一方、調査研究の帰着点を設定し、今後の調査を見直す時期にきている	

郷土資料館事業評価表

25年度

1. 取組事業名

取組事業名 (教育目標・基本方針から)	マイクロフィルムのデータ化事業	事業経費	1,003,987円
------------------------	-----------------	------	------------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を委員も分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	地域の歴史を学ぶ人など古文書に対する関心も高まり、資料の閲覧希望も多く、さらにフィルムの劣化という問題もあるので、マイクロフィルムを早急にデジタルデータ化して、資料の保存と公開・活用の推進を継続する。
-------	--

3. 事業の目的

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

古文書等のデジタルデータ化は、利用を容易にすることと同時に、資料の保存という重要な役割をにない、原資料は公開することで劣化や散逸を防ぐため行なうものである。

4. 事業の目標・成果

(1) 目標(どのような目標を設定したのか)

現在郷土資料館にあるマイクロフィルムは、市史編さん事業において撮影した35mmフィルム319巻、16mmフィルム64巻(35mmフィルムに換算して約128巻)、ふるさと博物館において撮影した35mmフィルム39巻が保管されている。これらの資料を誰でもが容易に利用できるようなシステムの構築を目標とする。

(2) 成果(実績数値など)

平成25年度は35mmフィルム23巻分をデジタルデータ化し、また画像データ保管・閲覧用パソコンのOSをWindows 7に移行しこれに伴う作業を行なった。これにより検索可能な範囲がさらに広がり、目的の資料の検索や印刷が迅速にできるようになった。「古文書講座」の教材や展示・刊行物の資料選択に、また、市民からの閲覧の希望や、他の博物館からの問い合わせ等に活用されている。これで事業開始の平成19年度から同25年度までに35mmフィルム187巻・全体の約37%のデータ化が完了し、残りは321巻分・約63%となった。

5. 事業の課題・問題

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

マイクロフィルムの目録を全て電子化して、一括した資料検索が出来るように整備する。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☒ やや効率が悪い	☐ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☒ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	次年度以降の取組み	マイクロフィルムのデジタル化の年度計画を策定し、早い時期の完了を目指したいと考える。	
委員意見		デジタル化は市民の財産として大いに推進してほしいが、事業開始7年目にして達成率37%は少ない。毎年の達成率が全体の約5%では、完了までにまだ12年以上もかかり、この間に資料の劣化が進む。毎年のようにデータ化量の増加を提言しているが、なかなか実行されない。緊急度が高いため、抜本的に計画を見直し、必要な予算要求をして最優先で行うべき課題である。そして未撮影分の資料のデータ化にも取り組むべきである。	

郷土資料館事業評価表

25年度

1. 取組事業名

取組事業名 (教育目標・基本方針から)	古文書調査・整理事業	事業経費	626,650円
------------------------	------------	------	----------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を委員も分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	近年家の建替えや世代交代のため散逸や廃棄などの危機にさらされている。これらの古文書は地域の歴史を明らかにする大事な資料であると同時に、市民の共有の財産でもある。このような状況下にある古文書を調査・整理し、保存することによって、古文書を次世代へ伝え、地域の歴史を調査・研究する人々や古文書を学ぶ人々に提供できるようにしたい。
-------	---

3. 事業の目的

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

所蔵者と古文書の現状を把握し、新たに発見された古文書とともに調査・整理し、古文書の散逸を防ぐための確実な保存の措置を講じていく。また、古文書が容易に解読できるような学習の機会を作り、古文書講座や講演会を開催するとともに、誰にでも読めるように資料集の刊行等活字化を進めていく。

4. 事業の目標・成果

(1) 目標(どのような目標を設定したのか)

- ①古文書整理調査 日野に関する古文書について随時調査を行ない、資料館所蔵または借用資料を整理し、目録を作成して必要に応じて撮影を行なう。
 ②古文書解読 資料館所蔵の古文書等を解読・調査し、史料集として刊行できるようにするための原稿を作成する。 ③古文書講座を開催し、古文書に関する知識の普及に努める。

(2) 成果(実績数値など)

- 川辺堀之内の増田誠二家・阿川悌二郎家から資料の寄贈を受けたほか、豊田の山口高靖家から資料寄託を受けた。
 ①古文書整理調査 朝倉恭子家文書、高橋通夫家文書、阿川悌二郎家文書などの整理、目録作成等を行った。日野の古文書を読む会が調査活動に参加したのは16回、参加者延べ90人。
 ②古文書解読(高橋村御用留) 日野の古文書を読む会の調査活動は40回、延べ422人。
 ③解読した文書の編集作業 日野の古文書を読む会の調査活動17回、参加者延べ78人。
 ④初心者向け古文書講座の開催 全6、参加者延べ132人。

5. 事業の課題・問題

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

解読した古文書は史料集として順次刊行(ホームページへのアップを含む)し、多くの市民に利用してもらえるよう環境を整えたい。また、古文書講座を開催し、古文書の学習機会を得られるよう図りたい。
 なお、緊急度・重要度の視点から取り上げる資料を選別する必要がある。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☒ やや効率が悪い	☐ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☒ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	次年度以降の取組み	古文書現況調査を進め、現所蔵者との連絡を密にして保存が良好に行なわれているか確認する作業を継続的にしていきたい。調査の過程で、各資料群に合わせて保存のための適切な処置を講じていく。寄贈・寄託を受けた資料は、目録を作成して解読を行い、史料集として刊行(デジタル化を含む)したり展示に活用していく。	
委員意見		今年度、豊田の名主家から貴重な古文書類の寄託を受けることができたのは、資料館への信頼の証である。資料館の建物(展示・保管場所)、保存技術等の整備に努めて、市民の信頼を得ながら市内の資料の収集・保存・活用を進めていくべきである。このことに取り組めるのは郷土資料館の他になく、館の使命として事業を推進していただきたい。区画整理や所蔵者の高齢化などが進み、今後資料の寄贈・寄託は増えると考えられるが、資料の整理が追いつかない状況に思えるので、人員の増員が必要であろう。ひいては調査・研究・活用できる人材の育成にも努めてほしい。	

郷土資料館事業評価表 25年度

1. 取組事業名

取組事業名 (教育目標・基本方針から)	勝五郎生まれ変わり物語探求調査事業	事業経費	492,732円
------------------------	-------------------	------	----------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要（事業の対象者、内容を委員も分かるように簡潔明解に記載）

事業の内容	程久保に江戸時代後半から伝わる生まれ変わり伝承を調査・研究するとともに、一方の生まれ変わりの地である八王子市との協働により、物語を両市で共有し、地域振興に活用する。資料展示・講演会・見学会・イベントの開催などを行なうほか、出張授業・子ども講座などを通して、子ども達にふるさとの伝承として記憶してもらおう活動を行なう。
-------	--

3. 事業の目的

事業目的（当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか）

勝五郎生まれ変わり伝承について、調査・研究・普及・啓蒙活動を継続・発展させ、その成果を記録に残し、発祥から200年という節目を迎える現在の到達点を後世に伝えていくための資料作りを完成させる。特に、10月10日の藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日イベントを、高幡不動尊と連携して、郷土の語り継いでいく物語として伝承していく。

4. 事業の目標・成果

(1) 目標（どのような目標を設定したのか）

- ①調査・研究・学習活動を充実させ、調査団の活動を継続して担える人材を育成する。
- ②関連資料・情報を収集し、勝五郎の生誕地である八王子市東中野での調査・活動も行なう。
- ③講演会・出張授業・出張展示・見学会・生まれ変わり記念日事業を開催し、日野市における郷土教育の1つとして充実させる。

(2) 成果（実績数値など）

- ・毎月1回の「勝五郎生まれ変わり物語探求調査団」の例会を開催したほか、講演会・見学会を開催した。
- ・勝五郎や藤蔵の親族関係について調査を行ない、資料を含め新たな事実が判明した。
- ・勝五郎の地元、八王子で調査を行なっている人達との連携を図り、八王子市での出張展示（517人の見学）を行ない、八王子市長も見学された。
- ・夏休み子ども講座で、初めてマイクロバスを利用し、一小・仲田小の子どもたち等が参加（約30人）し、好評を得た。
- ・生まれ変わり記念日の講演会は、常光徹氏の「妖怪の民俗学」を開催し、224人の参加があり、今後の調査における重要な示唆を得ることができた。
- ・平成25年度の総活動数は39回で参加者数は1,266人を数えた（調査団員55人）。

5. 事業の課題・問題（事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します）

調査団の活動の1つの到達点と考えている勝五郎生誕200年の平成27年度に向け、今までの成果をまとめていく。具体的には、調査報告書の刊行、わかりやすく解説したブックレットの刊行、記念特別展の開催、記念日事業のイベントなどを計画する。また、生誕200年記念事業を、市内外の多くの人々にアピールするために様々なメディアの活用を検討していく。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☒ やや効率が悪い	☐ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☒ 維持・継続	☐ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	次年度以降の取組み	平成27年度に向けて、①調査・研究・学習・普及活動の継続と充実 ②勝五郎生誕200年記念事業の立案と実施。 ③調査報告書・ブックレットの原稿執筆と編集作業 ④特別展にむけての準備（ジオラマの修復他） ⑥PR事業の充実（カウントダウンニュースの発行、ホームページ開設など）	
委員意見		長年にわたり市民と共に調査を進め、非常に多くの資料の収集や多方面との交流を深め評価を得てきたことは、高く評価したい。これからはそれらの評価をまとめて、今後に残して行くべきものとする。夏休み子ども講座で、重点校を選びマイクロバスを活用したことは、高く評価できる。今後も続けてほしい。27年の生誕200年事業でまとめる成果を、日野市民だけでなく全国に広めてほしい。委託調査終了後も、子ども講座や記念日事業は日野市郷土資料館の事業として残すべきであり、長く続けていって欲しい。学校での出張授業や八王子市との連携などを地道に続けてもらいたいし、小中学生にわかりやすい教材化を考えるべきである。	

郷土資料館事業評価表

25年度

1. 取組事業名

取組事業名 (教育目標・基本方針から)	七生丘陵の自然と歴史調査事業	事業経費	179,984円
------------------------	----------------	------	----------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を委員も分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容 七生丘陵について、地形や動植物の自然、七生地域で営まれてきた暮らしや歴史などを対象とした調査及び調査結果の普及活動(パネル展、現地見学会)を行なう。市民学習団体「七生丘陵調査団」による委託調査事業である。

3. 事業の目的

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

刻々と変化をしていく自然や生活の中で、今残る自然や風習などを収集・調査・デジタルデータ化などとして記録し、後世に残していくことを目的とする。

4. 事業の目標・成果

(1) 目標(どのような目標を設定したのか)

- 1 市民との協働活動: 参加者数の増加、より多くの市民への普及を目的として、普及活動(パネル展)の開催場所・回数を増やす。
- 2 調査内容: 他市との境調査、昔の写真収集と現況調査、新たに、過去の樹木種子標本・樹木写真の再整理・充実を行なう。
- 3 普及活動: 七生丘陵の魅力を伝える普及活動として展示や講演会、散策会を実施する。

(2) 成果(実績数値など)

調査団は、登録市民人数21人 平成25年度参加者数 延べ882人

調査事業を行い、まとめとして以下の普及活動を行なった。

- ・ 25年6月7日～28日「棚田の四季」日野市役所市民ホールでのパネル展
- ・ 25年8月15日～11月13日「棚田の四季」セツ塚ファーマーズセンターでのパネル展(観覧者数3,516人)
- ・ 25年11月6日～27日「高幡の記憶～写真で見る高幡の今昔」高幡不動駅自由通路でのパネル展(30分間のカウントによる観覧者数: 平均23人)
- ・ 26年3月8日 体験講座「歩いてみよう!～日野市・八王子市の市境～」(参加者数28人)

講演会「地図と境界 日野市と八王子市の境界を歩く」予備知識として」講師: 今尾恵介。

また、新たに始めた、過去の樹木種子標本・樹木写真の再整理・充実では、170種中142種の樹木種子を収集し、標本として保存することができた。

5. 事業の課題・問題

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

調査団の活動を通し、調査・普及活動において地域の方々とのつながりがだんだんとできてきた。展示の機会をさらに増やして普及し、調査を充実させていきたい。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった	☒ 大きな効果があった
		☐ 限定的な効果があった	☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い	☒ 効率が良い
		☐ やや効率が悪い	☐ 効率が悪い
委員意見	今後の方向性	☐ 拡大・充実	☒ 見直して拡大・充実
		☐ 維持・継続	☐ 見直し
次年度以降の取組み		中期計画(3年間)を立て目標を明確化する。	
委員意見		・ 七生丘陵の自然と歴史について、多面的かつ継続的に、市民と共に調査を実施しており、その結果は展示会、講演会、デジタル化などとして、大きな成果を上げている。特に、館外の高幡不動駅コンコースや市役所市民ホールなどで展示を行ったことは、有効な普及活動として大きく評価したい。さらに展示場所を増やしてもっとPRをすることと、このデータを印刷物として残すことを求める。 ・ 市境を歩く体験講座・講演会は、新しい視点で日野市と隣接市を見ることができ、大変興味深かった。七生丘陵のハイキングコースをもっとPRし、市民の活用を働きかけて欲しい。 ・ 資料収集、整理、保存について成果を上げている。失われていく自然の資料収集は不可欠であるが、保護対策を考えることも必用。暮らしの中で活用されてきた木や植物など、身近な自然に市民一人一人が興味を持つことで守られる自然があるのではないかな。	

郷土資料館事業評価表 25年度

1. 取組事業名

取組事業名 (教育目標・基本方針から)	ふるさと日野の自然とくらし展開催事業	事業経費	521,508円
------------------------	--------------------	------	----------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要（事業の対象者、内容を委員も分かるように簡潔明解に記載）

事業の内容	ふるさと日野の自然とくらしを総合的テーマとして、企画展を開催した。 ①「日野の自然 標本・写真展」平成25年5月3日～7月28日貴重植物／鳥と風景／昆虫とシダの3部構成 ②「稲生物怪録絵巻パネル展」平成25年7月13日～9月12日 ③日野の明治・大正・昭和」平成25年8月3日～平成26年1月5日 ④「くらしの道具 今・昔、新収蔵品展」平成25年1月12日～平成26年4月16日
-------	---

3. 事業の目的

事業目的（当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか）

ふるさと日野における歴史・民俗・考古などのほか、文学や自然にいたるまで、様々な事例を紹介することにより、先人たちの豊かな精神・風土を知ってもらうことを目的とする。地域への深い知識と理解が、日野を愛する心を生み、地域を大切に思う気持ちを育む手助けとなる事業を展開することを目指している。

4. 事業の目標・成果

(1) 目標（どのような目標を設定したのか）

- ①今まで郷土資料館に蓄積されてきた資料や情報をわかりやすく市民に理解してもらう展示を行うことを目指す。
- ②日野市の歴史や自然を物語る多様なテーマを選択した展示を行なう。
- ③日野市の歴史の流れを理解してもらえる展示を目指す。
- ④新たに収蔵された資料を公開する展示を行なう。
- ⑤新たな歴史資料や情報の収集に努める。

(2) 成果(実績数値など)

企画展展示観覧・関連行事参加者数は4事業で1,285人（②は除く）、内学校見学は、14件1,136人でした。
（①583人、③463人、④239人）

5. 事業の課題・問題

事業の課題・問題（事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します）

- ①自然関係の展示は、標本や写真などビジュアル的なものが多いため根強い人気がある。
- ②くらしの道具展は、小学校社会科の学習に準拠した内容であるため、学校見学が多く、今後も定番としてさらなる充実をはかっていきたい。また、データーサービス等の高齢者の方々が興味を持ち見学されていることに注視を。
- ③施設としての制約はあるが、今後もテーマを吟味し、創意工夫を凝らして充実した展示内容としていきたい。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☒ 限定的な効果があった	☐ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☐ やや効率が悪い	☒ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☐ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	次年度以降の取組み	魅力ある展示企画や広報を行ない、来館者の増加を図る。収集資料・情報の整理を行い市民の財産である歴史資料を後世に伝えていくためのアーカイブ作りを進める。今まで蓄積した展示資料や情報を活用し、なるべく多くの展示内容を市民に提供する。展示の中から日野の郷土を市民が物語る雰囲気を作り出していきたい。	
委員意見		・地味ではあるが、多方面の事物を対象にした企画展は、郷土資料館にとって必要不可欠なものである。 ・学校教育と連携し、学校の指導計画にあった展示は大変よい。子どもが実物を見る貴重な機会となった。 ・日野の歴史が一目でわかるような展示や年表があるとよい。小学生が興味を持てる展示方法の工夫が求められる。 ・高齢者の生きがい、家庭でのふれあいにつながるデーターサービス高齢者の利用は特筆すべきこと。今後も働きかけてほしい。	

郷土資料館事業評価表

25年度

1. 取組事業名

取組事業名 (教育目標・基本方針から)	学校教育連携事業	事業経費	0円
------------------------	----------	------	----

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を委員も分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	小中高等学校の児童生徒がふるさと日野への理解を深めるために、直接的な方法や間接的な手法など様々な方法で郷土資料館の資料や人材を提供し学習活動を支援する。団体見学の受入、出張授業への資料と人材の派遣、郷土教材資料や情報の提供、職場体験などを実施する。日野市教育センターの郷土教育推進研究会等に資料館職員が参加し、資料の提供、情報や意見の交換を行うことで学校教育との連携を図る。
-------	---

3. 事業の目的

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

実物資料の実見や資料に触れる機会、最新の知見を提供する。生徒たちが学校での学びを一步深め、生活する場＝日野について、郷土の文化や歴史などの認識を掘り下げるのを支援する。

4. 事業の目標・成果

(1) 目標(どのような目標を設定したのか)

来館団体見学だけでなく、出張授業をあわせて行い、小中学校全校利用を目標とする。野外活動や物づくりといった児童生徒が体験できる多様な学習活動を支援する。学校で活用できる郷土資料を提供し、学校活動を支援する。郷土資料館の利用事例について、郷土教育推進研究会などを通して周知し、学校現場との意見交換も活発化する。

(2) 成果(実績数値など)

- ①来館(団体見学、職場体験等) 19件 1,193人 (小学校14件 中学校 4件 市外小学校 1件)
 ②出張授業(「昔の道具」に係るもの等) 18件 1,742人(小学校18件 中学校0件)
 ※歴史、土器、石田散葉に係るものも含む。ほかに農具(4校)や海底堆積層剥ぎ取り標本(1校)や展示解説パネル(1校)などを、学校へ貸し出した。
 ③郷土教育推進研究会に参加し、学校現場の意見を吸い上げた。
 ④日野高校生物部との観察会
 ⑤中央大学等との連携(勝五郎ほか)

5. 事業の課題・問題

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

昔の道具関係で出張・来館合わせてのべ17校の利用があり、過去最高を記録した。公開授業(授業参観)日に積極的に出張授業を行い、6校へ出掛け、保護者にも参観・参加してもらった。今年度は来館・出張合わせて市内全小学校と関わることができた。中学校は、2校が調べ学習で来館し、1校が職場体験で来館した。今後も郷土教育推進研究会等の教員の研究会などで学校教育との連携を進めていき、学校教育におけるニーズを掴み、郷土に関わる新しい教材を開発・提供していく。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☒ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☐ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☐ やや効率が悪い	☒ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☒ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	次年度以降の取組み	教員用に事業(授業・講演・体験学習・職場体験等)に対する意見を吸い上げ、事業内容改善に取り組む。校長会、教員研究会等の機会に学校向け周知を図る。	
委員意見		・学校を通して大勢の子どもたちに郷土の歴史・自然・文化・産業・人について理解させ、「ふるさと日野」に誇りと愛着を持たせる非常に重要な事業。 ・未来を担う子どもたちと日野を結ぶ大切な事業。昔の道具関係で過去最高の来館者と利用者があったことは評価できる。学校への積極的・持続的な働きかけの結果である。 ・小学生には体験学習や作業学習が効果的なので、歴史系だけでなく、自然系の出張展示もしてほしい。また、小学生向けの解説があるとよい。 ・日野高校生物部との観察会は成功事例。中学校へはさらなる働きかけが必要である。 ・着実な成果をあげている事業なので、予算を計上して更なる発展を期待する。 ・よくやっていると評価できるが、ICTを活用して、市の歴史的・自然的事物を学校教育に伝達できるよう、抜本的な方策を立てる必要がある。	

郷土資料館事業評価表

25年度

1. 取組事業名

取組事業名 (教育目標・基本方針から)	市制50周年記念特別展「第二部」 「日野市の半世紀～移りゆくまちの過去と今そして未来」開催事業	事業経費	3,276,364円
------------------------	--	------	------------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要（事業の対象者、内容を委員も分かるように簡潔明解に記載）			
事業の内容	平成25年度に市制施行50周年を迎えるにあたり、24・25年度の二か年にまたがって日野の近現代史を振り返る特別展を企画した。25年度は、その第二部として、市制施行50周年を記念して、上記総合タイトルのもと、 ①「七生丘陵の今昔」・高幡図書館②「工業都市の変遷」・新選組のふるさと歴史館③「昔の遊びとMade in Hino」・日野宿交流館④「高幡の記憶～写真でみる高幡の今昔」・京王線高幡不動駅コンコースの4会場で開催した。オール日野市として、他課の学芸員と共に、企画から展示まで力を合わせて行った。会期は10月1日から12月15日までの76日間（4会場併せて）。		

3. 事業の目的

事業目的（当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか）
前年度開催の特別展第一部で、明治から終戦までの日野市域のあゆみ（特に近代史）を紹介した。25年度は、特別展第二部を開催することによって、日野市が市制施行50周年を迎えることを市民にアピールし、記念行事を盛り上げていく。

4. 事業の目標・成果

(1) 目標（どのような目標を設定したのか）
昨年度実施の「市制50周年記念特別展 第一部」を引き継ぎ、歩んで来た歴史（過去）から日野の地域特性について考え、現在そして未来へとつながる展示構成を心がける。展示を通して、市民に市制施行50周年をアピールするとともに、市職員も日野の歴史について知識を共有し、記念行事に向け一丸となって取り組める下地作りになるよう心がける。
(2) 成果（実績数値など）
1. 特別展の展示観覧者数 3,852人。記念式典への参加41名。特別展会場には市内小学校4校が団体見学で訪れた。 2. 展示解説リーフレットの発行 5,000部、特別展展示図録 500部 3. 関連企画 ①「日野コンテッサがやってくる」 早稲田ちんどん研究会 136人参加。 ②「昔のおもちゃを作って楽しもう」186人参加。③講演会「多摩動物公園誕生秘話」 講師 矢島 稔氏、71人参加。

5. 事業の課題・問題

事業の課題・問題（事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します）
①第二部は戦後から現在までの約70年を対象としたが、資料調査が十分に行えず、埋もれた資料の発掘が不十分であった。 ②チラシは市内全小中学校の児童・生徒・教職員へ配布した。その結果、特別展会場へ4校が団体見学で訪れた。しかし児童・生徒が家族で訪れるということは少なく、課題を残した。 ③二か年にわたる特別展により、オール日野市として学芸員が結集したことは有意義であった。情報交換を続け、今後の活動につなげていくことが必要。 ④今回の展示を契機に、日野市の特性に合った近現代資料の収集や保存に力を入れていきたい。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☐ やや効率が悪い	☒ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☒ 維持・継続	☐ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	次年度以降の取組み	・日野市の特性を表す近現代資料の収集と保存に力を入れていく。 ・失われてしまうものを把握し、的確に手を打っていく。（市制50周年、国体の事業ほか）	
委員意見		・4会場での展示は、多角的・画期的で展示内容が充実していた。冊子も労作であった。 ・オール日野市体制で企画から展示まで学芸員の協力体制が組めたことはよかった。この成果を継続してほしい。 ・仲田の森の第一蚕室を活用した養蚕の展示・実演をしてほしかった。富岡製糸場と共に日野市の蚕糸試験場も盛り上げてほしかった。 ・家族と共に参観した子どもが少なかったのは残念であった。50周年への市民の意識・意欲を高める努力が不足していたのではないかと。	

郷土資料館事業評価表 25年度

1. 取組事業名

取組事業名 (教育目標・基本方針から)	日野市のあゆみ50年調査事業	事業経費	250,000円
------------------------	----------------	------	----------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を委員も分かるように簡潔明解に記載)			
事業の内容	平成25年に市制施行50周年を迎えるにあたり、郷土資料館は、関連資料(行政資料、地域資料、写真、映像、情報等)を収集し、調査研究、保存していく必要があり、このことを踏まえて、平成22年度に市制50年を市民に周知するためのプレ展示として、特別展「新聞記事で見る日野市のあゆみ50年―昭和編―」を開催し、基礎資料作成の第一歩とした。この時、新たに市民ボランティアを募集して、資料調査や展示作業への協力などで大きな成果を得た。23年度以降、市民ボランティアをさらに発展させた「日野市のあゆみ50年を調査する会」による委託調査事業を行なっている。		

3. 事業の目的

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)	
平成25年に市制50周年記念事業の一環として、郷土資料館で特別展を開催するに先駆けて、近代史を概観する特別展を実施するのに協力し、平成10年に市史編さん事業が終了して以降、手付かずになっている日野市の近現代資料や市民からの関心が特に高い古い写真や地図など収集と保存に重点的に取り組む。	

4. 事業の目標・成果

(1) 目標(どのような目標を設定したのか)	
市制50年を市民に周知するための活動を行い、資料や情報提供を呼びかける機会とします。「日野市のあゆみ50年を調査する会」と協力して調査事業を行い、郷土資料館で所蔵する古い写真や広報原紙の整理などを進め、市外の諸機関に所蔵されている日野市(日野町・七生村含む)に関連する資料の収集と整理を行なった。また、詳細な日野市の近現代史年表を作成した。	
(2) 成果(実績数値など)	
①調査研究活動 調査する会は、市制50年に関する知識を共有するため、例会を会員相互の学習の場とし、調査成果の報告や研究発表、情報交換を行い、今年度は計14回の例会を行い、延べ64人が参加しました。詳細な現代史年表の作成のほか、高齢者からの聞き取り調査や資料館に収蔵されている古い写真について年代や撮影対象などを特定する作業を行ない、情報のデータベース化に向けての作業を行なった。 ②展示普及活動 特別展「市制施行50周年記念 日野市の半世紀」への展示協力を行ない、住宅団地の建設や工場に関する展示パネルを作成した。 ③広報普及活動 調査の成果を報告書『日野、住んでみてよかった』にまとめ、350部印刷製本した。また、3月29日に一般市民への成果報告として、公開講演会「日野、住んでみてよかった」を新町交流センターで行ない、92人の参加がありアンケートの結果も好評だった。	

5. 事業の課題・問題

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)	
資料館以外の庁内の他部署との関わりが少なく、活動の範囲があまり広くなかった点は反省点。市制50年の節目を迎えたが、戦後史の調査はまだ不十分で、今後も資料館で継続発展させていく必要があることを改めて感じた。特に、高齢者からの聞き取りは急務であると実感した。戦後の資料は膨大で多岐にわたり、特に市民からの関心が高く需要も多い写真や映像などについても、今後十分に調査・整理を進める必要がある。	

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☒ 限定的な効果があった	☐ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☒ やや効率が悪い	☐ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☐ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	次年度以降の取組み	平成25年度で事業完了。蓄積した市民のパワーを新たな形で進化させていく必要がある。	
委員意見		市制50周年に合わせた調査事業であり、特別展の参考になる資料の発掘が多くあったことと思う。報告書はテーマと内容が素晴らしく感動した。会員の興味の対象と調査の結果がうまくまとめられ、読み物としても面白く仕上がっている。あわせて行なった報告会も良かった。市民の力のすごさ、郷土資料館の市民の力を活用するすごさを感じた。郷土資料館は市民との連携プレーがうまい。この成果を今後も活かしてほしい。	

郷土資料館事業評価表 25年度

1. 取組事業名

取組事業名 (教育目標・基本方針から)	体験学習会・伝承事業	事業経費	45,000円
------------------------	------------	------	---------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を委員も分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	体験学習会として、かつて、多摩地域の伝統産業であった「目籠づくり」や「わらざうり・正月飾りづくり」、また、日野市石田の土方家で、江戸時代から作られていた民間業の「石田散葉づくり」などを行ない、体験を通じ日野市の文化を伝えていく。 農業体験として、新生エコライフクラブに講師を依頼して、これまでのエコライフ事業の中で培われてきたノウハウを活かし指導にあたる講座を公民館との協働事業で行なう。農業文化伝承のために、農具・民具の利用法・活用の実地伝承も行なう。 また、伝統行事として、小正月に行われてきた地域に伝わる火祭り行事「どんど焼き」を行なう。
-------	---

3. 事業の目的

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

- ・暮らしに役立つ道具作りなどを通して、先人の知恵や技術の継承を行なっていく。
- ・親子で土に触れ、土に親しみ食物を育て自然の恵みを収穫する。自然と人間との共生・人間相互の共生を図ることを目的にするとともに、昔の農具を使用しての農作業を体験することで、農業文化という歴史を学ぶ。
- ・伝統行事は、日野の風物詩として、広く市民に伝え、技術や伝承の保存と継承を行なう。

4. 事業の目標・成果

(1) 目標(どのような目標を設定したのか)

「目籠づくり」や農業体験講座「親子で豆腐と味噌を作ろう」の年間を通じた開催と「わらざうり・正月飾りづくり」などの講座を開催する。また、「どんど焼き」などの伝統行事を実施するとともに、どんど焼きに参加するために郷土資料館に訪れた市民に郷土資料館の事業・展示などを積極的に紹介し、どんど焼きを導入口として、郷土資料館の事業の周知・理解に役立てたい。

(2) 成果(実績数値など)

目籠づくり	4月～3月	全19回	延べ参加人数109人(9人)
農業体験講座	7月～2月	全7回	延べ参加人数 99人(9組申込み)
わらざうりづくり	11月16日(郷土資料館まつりの中で公民館との同日開催)		参加人数19人
正月飾りづくり	12月14日開催	参加人数	41人
どんど焼き	1月12日開催	参加人数	510人
・伝統産業継承を行なうにあたり、竹細工の「竹取クラブ」や昔の農具の整理・補修など「程久保ボランティア」のメンバーにご協力をいただいた。			

5. 事業の課題・問題

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

農業体験講座は、親子20組募集に対し応募者が5組と親子の参加が少ない。親子参加については、今後再検討をしていく。またどの体験講座も技術の伝承に関しては、後継者の育成が必要であり、「萱」・「しの竹」・「稲わら」などの材料の確保が年々難しく、新しい採集場所の検討が必要である。

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☐ やや効率が悪い	☒ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☒ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	次年度以降の取組み	・現状の講座の再検討を行ない今後の計画を整理する。 ・埋もれている伝承事業の発掘や研究を行なっている。	
委員意見		・伝統産業の体験学習は有意義で、参加者の郷土への理解が深まり、体験したことは忘れないものである。 ・伝統文化・産業は、継承・発展させなければならない。後継者の育成・材料の確保も含め今後の継続をお願いしたい。 ・事業によっては、参加者が少ないが、この対策を考えるのが課題である。学校教育連携事業と連携させるのも1案かも知れない。 ・お子さん達も土・日は習い事で忙しいのかも知れませんが、みんなで力を合わせて農作業をする楽しさを知ってもらいたい。	

8. 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市郷土資料館（以下「資料館」という。）は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 資料館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

《郷土資料館協議会委員名簿》

番号	氏 名	選出区分	期
1	今尾 恵介	学識経験者 (まちの歴史・地図解説)	4
2	上野 さだ子	社会教育の関係者 (歴史・古文書研究)	4
3	小林 和男	社会教育の関係者 (農業体験指導・考古学)	4
4	杉浦 忠機	社会教育の関係者 (自然体験指導)	4
5	杉浦 靖俊	社会教育の関係者 (郷土資料所蔵者)	4
6	松川 正樹	学識経験者 (古生物研究)	4
7	峰岸 純夫	学識経験者 (歴史)	4
8	秋山 譲児	学校教育の関係者 (平山中学校長)	4
9	中島 和夫	学校教育の関係者 (日野第一小学校長)	2

任期 自 平成 2 4 年 3 月 4 日
至 平成 2 6 年 3 月 3 日

9 - ② 第5期日野市郷土資料館協議会委員

《郷土資料館協議会委員名簿》

番号	氏 名	選出区分	期
1	上野 さだ子	社会教育の関係者 (歴史・古文書研究)	5
2	小林 和男	社会教育の関係者 (農業体験指導・考古学)	5
3	杉浦 忠機	社会教育の関係者 (自然環境体験指導)	5
4	松川 正樹	学識経験者 (古生物研究)	5
5	今尾 恵介	学識経験者 (まちの歴史・地図解説)	5
6	秋山 譲児	学校教育の関係者 (平山中学校長)	5
7	中島 和夫	学校教育の関係者 (日野第一小学校長) (平成26年3月31日まで)	3
	岡部 君夫	学校教育の関係者 (滝合小学校長) (平成26年4月1日より)	1
8	小杉 博司	学識経験者 (郷土教育)	1
9	都 美里	公募市民	1
10	山口 久夫	公募市民	1

任期 自 平成26年 3月 4日
至 平成28年 3月 3日

平成26年度日野市郷土資料館の

運営の状況に関する評価書

(平成25年度事業)

平成26年8月

日 野 市 郷 土 資 料 館

〒191-0042

東京都日野市程久保550番地

電話 042-592-0981

FAX 042-594-1915